



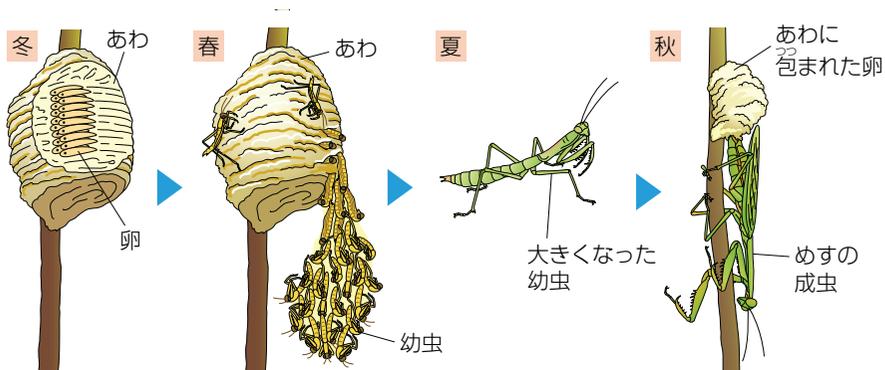
オオカマキリ



オオカマキリは、草むらなどでよく見られるカマキリです。敵が近づくと、(1)を広げてかまのような大きな前あしを上げ、いかくします。

成長のようす

オオカマキリなど、カマキリは(2)です。卵が(3)すると、幼虫は(4)をくり返しながら成長します。やがて幼虫は(5)し、成虫になります。



オオカマキリは、(6)に包まれた(7)のすがたで冬ごしします。(8)になると、あわの中で卵が(9)し、幼虫があわの外に出ます。幼虫は(10)から(11)にかけて(12)し、成虫になります。(13)には成虫が(14)などに、あわに包まれた(15)を産みつけます。

プラスのトク

オオカマキリなどのように、卵があわに包まれていると、卵がかわいたり、寒さでこおったり、ほかの動物に食べられてしまったりしにくくなります。

食べ物とすみか

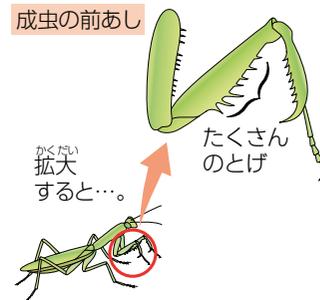
オオカマキリの幼虫と成虫は、草むらなどにすみ、(16)などを食べます。

プラスのトク

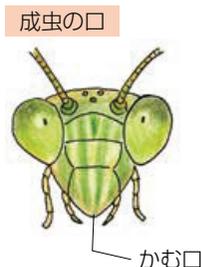
オオカマキリは、草むらにいるほかの昆虫をつかまえるとき、気づかれぬようにそっと近づきます。オオカマキリのからだに草にまぎれる色をしているのは、ほかの昆虫に気づかれぬようにするためです。

からだのつくり

オオカマキリの幼虫と成虫の前あしは、大きな(17)のような形をしています。(18)もたくさんあり、昆虫をつかまえやすくなっています。



オオカマキリの幼虫と成虫はほかの昆虫などを食べるため、(19)です。



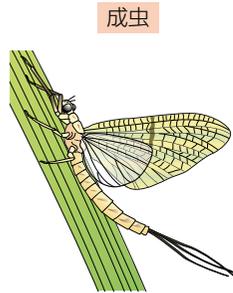
(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。

カゲロウ

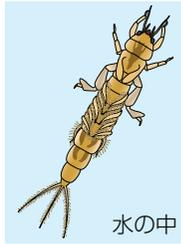


カゲロウのなかまは、成虫の寿命が数時間～数日間ととても短い昆虫として知られています。

カゲロウは(20)です。(21)に産みつけられた卵が(22)すると、幼虫は(21)で(23)をくり返しながら成長します。やがて(24)して成虫になります。成虫は水の中に産卵します。



成虫



幼虫

水の中

+プラスワン

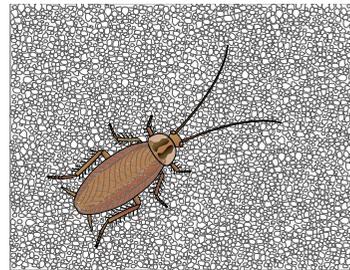
カゲロウの幼虫はえらもち、水の中にとけた酸素を使って呼吸します。カゲロウの一種であるヒラタカゲロウの幼虫はきれいな水のある所にしかすまないで、ヒラタカゲロウの幼虫が生息しているかどうか、水のきれいさを判断するのに使われることがあります。

ゴキブリ



ゴキブリのなかまはさまざまな場所にすみ、植物や動物の死がいなどいろいろなものを食べる昆虫です。人家にすむものもあります。おもに(25)に活動します。

ゴキブリは(26)です。



+プラスワン

ゴキブリは、3億年ほど前からほとんどすがたをかえずに生き残っている昆虫です。そのため、「生きた化石」といわれることがあります。

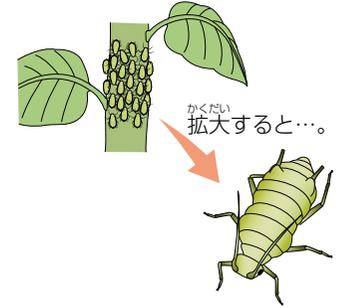
アブラムシ



アブラムシのなかまは、いろいろな(27)を吸って生きる小さな昆虫です。植物の(28)や(29)に何匹もくっついてるのが見られます。アブラムシによって農作物にひ害が出ることもあります。

アブラムシは「アリマキ」とよばれることもあります。

アブラムシは(30)です。



拡大すると…

+プラスワン

アブラムシには、アリと助け合って生きているものもいます。アブラムシは、天敵であるテントウムシなどの昆虫から、アリによって守られます。守ってもらうかわりに、アブラムシはからだから出すあまいしるをアリにあたえます。

